



ながさきロングライフデザイン  
NAGASAKI LongLife Design

長崎県産業デザインネットワークでは、長い間、県民の皆様に親しまれてきた優れたデザインの商品を再認識するとともに、その物語を広く紹介してきたいと考えております。今回は、株式会社 梅月堂の「南蛮おるごおる」をご紹介します。「南蛮おるごおる」は 1973 年から製造・販売を開始、45 年以上の歴史を有する商品です。

# 南蛮おるごおる

1973 年～（株式会社 梅月堂）

軽やかに深い、一本。  
ふたを開けて香るのは、長崎が育んだ文化の香り。

今から 50 年ほど前に生まれた「南蛮おるごおる」。その原型は「シガレット」というヨーロッパに古くから伝わるお菓子です。元々焼きたての熱い生地を手で一本一本丸めていました。販売量が増え量産したいと機械の開発を思い立ちましたが、油脂分の多いデリケートな生地は手巻きでしか巻けないものでした。

それでも妥協のない味への追及は、生地をやさしく扱える、まるで手仕事を再現したかのような機械をも開発させたのです。「南蛮おるごおる」の何気ない一本一本には、様々な試行錯誤が込められています。

もうひとつ「南蛮おるごおる」の大きな特徴は、パッケージにあります。ぐるりと巻いた細長いクッキーは、

まるで葉巻のよう。それなら葉巻の箱に入れたら楽しいのでは？そんな発想から実際に葉巻の箱を調達して、あれこれ試行錯誤の末できたのがこの箱。長崎ではこの箱を小物入れにされているご家庭も多いとか。箱まで愛されているお菓子なのです。

箱の表のデザインには、長崎の版画家・田川憲さんの版画を配し、しおりの文章は、長崎歌壇の中心的存在であった秦美穂さんが手がけました。

当時の梅月堂は長崎の文化人のサロンでもあり、お菓子とお茶を楽しみながら、音楽や芸術の話に花が咲いていたのです。

「南蛮おるごおる」の箱を開けると、そんな長崎に流れていた時間までもが、聞こえてきそうな気がします。

